1993年 5月15日発行（隔月奇数月発刊）　点訳通信１０号

点訳通信　第１０号

1993. 5.15

盲人情報文化センター

私の点訳ライフ

新人紹介

一字一字を正確に

増田　桂子

録音テープに貼る点字タイトルを打つ目的で、吹田市の点訳講習会に出かけたのが、点字との出会いです。そして昨年９月、パソコン点訳を知りました。

初めてパソコンの説明を聞きに行った日、木村さんが、表紙の作り方の見本を見せてくれました。「もうすぐ完成の本ですが」と、持ってこられたのは、『ずっとあなたが好きだった』でした。それは前月テレビの放映が終わったばかり。視覚障害者が読みたいなと思って頼んでも、忘れた頃に届られると嘆いていたのを聞いたことがありましたから、パソコン点訳の威力に驚きました。

一字一字を正確に読むことの難しさを痛感し、納得がいくまで質問する皆さんの熱心さに感心しながら、６か月間の講習が終わりました。４月から一人一冊の本を持ちますが、早く始めたい気持ちと、間違いが少なく打てるかしらという不安が広がります。先輩方のご指導を受けながら、長く続けていきたいと思います。どうぞよそしくお願いいたします。

ただ一人の男性として

米澤　保

今回の講習会を終了し新たに点訳ボランティアに加えていただくことになります。９名の内ただ１人の男性です。目を傷め心筋梗塞になり半人前の力しか無い老人ですが、余生を点訳でお役に立てれば上々と考えていますのでよろしくお願いいたします。パソコン点訳の利便を始めから受けられ、大いに活用したいと思っています。

同期のメンバーは皆さん素晴らしく熱心ですので喜んでいただけると思います。

点訳・講習会に参加して

井上　ゆり子

昨春、主人の大阪への転勤を機に、私も何か再就職への手掛かりにしたいと“ワープロ講習”を受講する機会がありました。その職業訓練センターで、“パソコン講習”を受講中の盲人の大学生の方々と知り合い、点字とパソコンの画期的な有用関係に、大いに驚きかつ強い関心を持ちました。たまたまインストラクターの方もＩＢＭの点訳ボランティアをなさっていたり、私の点訳ボランティアへの興味は募る一方でした。

そんな折り、新聞で当センターの『パソコンによる点訳講習会』の受講生募集を知り、さっそく参加させていただいた次第です。

今、半年間の講習を終了し、晴れて点訳活動に携われることになり、大阪にやって来た甲斐があったと嬉しさでいっぱいです。（主人に単身赴任してもらわず、よかった、ヨカッタ。…）

まだまだ理解不足甚だしく、技術も未熟な段階でおこがましいのですが、アルバイトにずっと学習塾の講師をしてきましたので、将来学習参考書の点訳などが出きるといいなァーと勝手な夢を膨らませたりなぞしております。

とにかく、修了証をいただくことができましたのも、清水先生、木村さんの寛容で手厚いご指導と、熱心で心豊かなグループの皆さまとの出会いに助けられての《賜物》と感謝の念でいっぱいでございます。

センターでの多くの皆さまとの出会いを楽しみに、今からも活動したいと思います。

どうぞ、よろしくお願いいいたします。

パソコン点訳講習会を終えて

篠原　苑子

３月の卒業の季節。昨年９月からパソコン点訳の講習を受けてきた私たちも修了式の日を迎えた。

帰りの電車の中で、袴姿に証書入れの筒を持った格好ではないけれど、私だってここにホレ修了証書をもっているんだぞ、と鞄をそっと撫でる。

鞄の中には初めて点訳する一冊の本も入っている。今日、修了証書を頂いた後職員の木村さんがラックに積んで持って来て下さった本達の中からいろいろ迷ったあげくに選んだものだ。６ケ月間一緒に清水先生のご指導を受けて来た仲間の皆さんも「最初だからなるべく簡単な本を」などと言いながらも嬉々として選んでおられた。

講習会が始まった頃、電話で話した友人から「貴方も一生続けられるものを見つけたね」と言われ、自分でもそんな気になっていたが、勉強が進むにしたがって考えが甘かったことが解ってきた。先生方のお情けで何とか講習

の修了まではこぎ着けられたが、今だに原本の一字一句につかえて「点訳のてびき」と首っぴきなのに、他の人の校正なんてとてもとてもという有様だ。

これから、さらに勉強していかないといけないのだけれど、せっかく見つけた“一生続けられるもの”、一生続けるのは無理としても、出来るだけ長く続けられればと思っている。私が点訳した本をどなたかが読んで下さるかもと言うひそかな期待を抱きながら…。

還暦を前に決断

久我　信子

案じていた講習会も、皆さまに助けられて何とか修了に漕ぎつけさせていただき、いよいよ点訳者の卵の誕生となりました。還暦を前に少し決断が遅かったかナ、と思いつつ、出来る限り長く楽しみ乍やりたいと思っております。どうぞよろしく。

点字板、点字タイプライターをご寄付下さい

催し物や、展示会などで点字板を使って説明する機会が最近多くなりました。ご家庭で、利用しなくなった点字板や点字タイプライターをお持ちの方がありましたらご寄付下さいませんか。ご寄付いただける場合は木村までお持ちいただくか、ご連絡下さい

点訳Ｑ＆Ａ

Q お尋ねします。「辞書を身のまわりに置いておく」という場合の、“身のまわり”は、表記辞典の例「身のまわりをととのえる」の“身のまわり”とは違い、その時要る「ミノ　マワリ」と切っていますが、間違いでしょうか。

A 表記辞典の例“身のまわり”は“服装”“身につけるもの”などを意味する一語として扱い“ミノマワリ”とつづけているのだと思います。しかし、“身のまわりに置く”“身のまわりの出来事”などは“ミノ　マワリ”と切って書いてよいでしょう。これに限らず、切ったとき、意味がくずれてしまうかどうかを、判断の目安にして、意味がくずれなければ、切って下さい。

Q ２マスあけについてお尋ねします。見出し・箇条書きなどの順番を表す数字・アルファベットに、ピリオドやカッコがついていない場合、その後ろは２マスあける、句点などのあとは２マスあける、という規則がありますが、それ以外に２マスあけにすることがあるでしょうか。

“山田鈴木両氏”のような文で、山田と鈴木の間を２マスあけて点訳されているのをときどき見受けます。読点や中点なしに、単語が羅列されているとき、２マスあける必要がありますか。

A 以前は、場合により２マスあけることもありましたが、読点や中点が点字にとり入れられてから、羅列された単語の間を２マスあけることは、原則としてなくなりました。２マスあけるケースとしては、

1. 詩などの区切りが、原文で空白になっているところ
1. 句点を使用していない古文書などで、明らかに、文章の切れ目になっているところ

等が考えられます。下の例の「＊」印のところです。

誰もが等しく抱いた悲しみについて
生きる苦しみと＊ 老いてゆく悲しみと
病いの苦しみと＊ 死にゆく悲しみと
現在の自分と
……

監物殿門弟ニ罷成　求玄流炮術平日相嗜罷在候ニ付　此度申合……
仕度奉存候間　年々御城内御道具共筒払之時節ニ成共　御足薬ニ……
難有仕合奉存候* 依之屯段奉内願候* 以上

一男様よりの御手紙に依り候へバ　此度の養蚕……
為め京値も廉き由　御同情にたへず候* 私勤務中……
不景気風に襲はれ　御互に経済上非常なる打撃を……

この他にも、２マスあけにするケースはあると思いますが、この場で説明するのはむずかしいことですので、迷われたときは職員にご相談下さい。

Q 手紙文を点訳する時、日付や差出人の名前はどこに書くのでしょうか。特に日付は書いてあるところがまちまちなので、迷ってしまいます。

A 日付については、原本では行頭に書いてあったり、かなり下がったところに書いてあったりしますが、全て本文とは行をかえて、２マスあけたところから書きます。差出人の名前はやはり行をあらためて、行末に書きます。肩書きなどがついて長い場合は２行にわけますが、最初の行の書き出しは１７マス目（３０マスで点訳している場合は１５マス目）以降にします。いくつかの例をあげておきます。

［例１］
（本文）－－－－－－。
□□５ガツ□１５ニチ

ヤマダ□ハナコ

［例２］
（本文）－－－－－－。
□□１９９３ネン□５ガツ

←－－（１６マス以上）－－→

テンジ□セイサクガカリ
ヤマダ□ハナコ

［例３］
（本文）－－－－－－。

←－－（１６マス以上）－－→

ダイリニン
オオクボ□ヒコザエモン

Q 中点の用法について迷うことが多々あります。

A 中点については「原本通りに入れた方がいい」とする意見と、「わずらわしいものは、はぶいてもいい」とする意見があり、たしかに迷うところです。ただ、省略しすぎて原本の意をそこなうおそれもありますのでとりあえず下のように決めました。

（１）省略してはいけない例
・人名の姓と名の間　　ジョン・レノン
・名詞などの並列　　松・杉・桧は・・・・。
　　調査・研究する
　　１・２・３楽章

（２）省略する例
・「点訳のてびき」Ｐ５５の下のらんのもの　　七・五・三など
・年月日　　１９９３・５・１５→数１９９３□数５□数１５
・重ね数字　　５・６人→数５数６ニン

実際には上の２項目以外のところで迷うところが多いと思いますので、**皆様からいろいろな例をあげて頂いて検討することにしました。どうしたらいいか迷ったり、原本でめずらしい中点の使い方をしてある例をメモにして（コピーでも）三階の意見箱に入れて下さい。**

お知らせ

会話を受ける　ト　について　再び！

前号のＱ＆Ａで、会話を受ける　ト　は原本通りに点訳するとの説明文の後、例の中では「トが行頭に書いてあっても２マス下げて点訳する」と矛盾した内容になっていました。これは例の方がまちがいです。

会話を受ける　ト　は原本通り、行頭に書いてあれば、行頭から、一字下がったところに書いてある時には２マスさげて、点訳して下さい。朝令暮改（？）で、皆さまをおさわがせして申し訳けありません。

なお、ＢＡＳＥで点訳しておられる方は、データを修正している間に行頭に書いたはずの　ト　が前の言葉とくっついてしまうことがありますので、「ト」が行頭にあっても２マスさげて点訳されても結構です。

ＢＥの場合もカギカッコを閉じた後に改行マークを入れておかないと同じように「ト」が前の言葉とつながることがありますのでご注意下さい。

原本で「と」が行頭にある場合

……「え、昼間からお酒を飲んでいるんですか」
と私が聞くと、

［ＢＥの場合］
……「エ、　ヒルマカラ　オサケヲ　ノンデ
イルンデスカ」［改］
ト　ワタシガ　キクト、

［ＢＡＳＥの場合］
……「エ、　ヒルマカラ　オサケヲ　ノンデ
イルンデスカ」
　ト　ワタシガ　キクト、

原本で「と」が行頭から一文字下がっている場合

……「え、昼間からお酒を飲んでいるんですか」
　と私が聞くと、

［ＢＥ、ＢＡＳＥともに］
……「エ、　ヒルマカラ　オサケヲ　ノンデ
イルンデスカ」
　ト　ワタシガ　キクト、

［注］　ＢＡＳＥを使用して点訳されている方は、行頭に文字を入力すると、文字を訂正した時など、行が上がり前の行の最後の文字にひっつくことがあります。「ＢＥ」と処理方法が異なるのはこのためです。

ぜひ読んで下さい！

「『点字表記辞典』運用表」について

点訳や校正をなさっていて分かち書きに迷われた時、多くの方が『標準点字表記辞典』をお使いのことと思います。この「辞典」の記載内容を全面的に採用すれば問題ないのですが、語の校正の解釈が当館とは若干異なるものもあり、従って分かち書きも少し異なっているものがあります。そこで「表記辞典運用表」というものを作成し、ボランティアの方々に配布しております。

この「運用表」作成にあたっては、ベテランのボランティアの方々の全面的なご協力をえ、数回に及ぶ検討を重ねたわけですが、なお、見落としや検討もれがあるようです。運用表内での矛盾点や、児童点字図書製作グループ運用表との関係で疑問点などありましたら、ご遠慮なくご指摘いただければその都度検討し、結果を発表していきたいと考えております。ご協力をよろしくお願いいたします。

今回、とりあえず「トリモナオサズ」を「運用表」に追加していただきたいと思います。「辞典」では「とりもなおさず」とつづけて書かれており、「運用表」でもこの語についてはふれておりませんでしたが、「トリモ　ナオサズ」と区切って下さい。

お知らせ

校正体制について

点訳ボランティアの方々によって点訳されたものは、現在次の三つの方法で初校を行っております。

(1) ボランティアどうしでペアを組んでいただき、お互いの点訳物を交換し、相互に校正をする。この場合、点訳された方が自分の点訳した原本を見、相手の方がその点訳物を見る、ということになります。１、２週に１度程度来館していただいて校正をしていただいています。
(2) ボランティアどうしペアを組んでいただき、それぞれ相手の方の原本と点訳物を両方とも自宅に持ち帰り、自宅でお一人で原本と点訳物との照合校正を行っていただく。１、２週に１度程度来館していただきますが、来館の目的はお互いに原本や点訳物を交換したり、校正結果を説明したりといったことだけで、具体的な校正作業は自宅でということですので、来館時間は短くしたいという方にお願いしています。
(3) 一定の時間帯に来館可能なボランティアの方に１ヶ所に集まっていただき、その場で即席のペアを組んでいただきます。そして、そのペアお二人以外の点訳されたものを原本と読み合わせ校正していただく。この方法では、１冊の本を何人かの人が校正することになり、レイアウトや漢字の読み、時には分かち書きなどでも不統一になる恐れがある、といった危惧もあるのですが、その反面、参加されている方々の個別の悩みや迷いが時にはみんなのテーマともなり、勉強になるとの声も聞かれます。
(4) ボランティアどうしでペアを組んでいただきますが、校正は１ヶ所に集まっておこないます。

以上四つの方法のどれかに皆さん入っていただいているわけですが、今していただいている方法が、それぞれの方の固定的な方法というわけではもちろんありません。(1) から(4) まで方法がありますので、いずれかに変更を希望される方はご遠慮なく職員にご相談下さい。また、点訳量に応じて、複数の方法を兼ねていただいてもかまいません。例えば(1) の方法で（ペア校正）校正しているが、校正以上に点訳が進んでしまった場合、(3) や(4) に参加していただいても結構です。(3) と(4) では校正方法が若干違いますが、１人での参加は可能です。

尚、(1) の方法は、来館可能時間や点訳量のバランスなど考慮しなければなりませんので、いつでもすぐにお相手が見つかるということではありませんが、できるだけご希望にそえるよう考えさせていただきます。

(3) のグループ校正は現在火・金曜日に、(4) の校正は木曜日に実施していますが、近々水曜日にも行う予定です。火曜日から金曜日までの都合のよい曜日に来館していただけるよう準備を進めています。

火曜日　13:00-
水曜日　10:30-　（予定）
木曜日　10:00-12:00
金曜日　10:00-15:00

尚、いずれの方法にしろ、初校後職員かボランティアの方で２校を行っております。

図書の推薦をどしどしして下さい

たくさん出版されている本の中から、どの本を当館で製作して行くかというのはたいへん難しい問題です。

当館では、毎月１回・第１水曜日に「選書委員会」を開き、各係りから推薦図書として上がって来たものの中から、当館で製作する図書を選んでおります。

この選書委員会の資料にする為に、できるだけ多くの方々に図書を推薦していただきたいと思っています。それぞれの方はご自分なりの好みや独断や偏見で推薦していただいて結構です。たくさんの方からの推薦があれば、一人一人の方で見れば片寄っていても全体としては結構バランスのとれた資料になると考えています。

図書を推薦していただく際は、「書名」「著訳者名」「出版社名」「定価」と推薦理由あるいは内容紹介（新聞の書評欄の切り抜きといったものでも可）を書いて、意見箱に入れて下さい。もちろん職員に直接渡していただいてもかまいません。

尚、推薦していただいても、その本が他館で製作されていたり、同種の本が重なる為どちらか1冊に決めたり、など必ずしも点訳図書として採用されない場合もありますので、その点あらかじめご承知おきいただきたいと思います。

２校校正者に名乗りをあげて見ませんか？

ボランティアの方々の手になる点訳書は、何らかの方法で初校を行い、その後２校を行って完成ということになります。この２校は、原則的に素読みで、疑問に思った点、不明瞭な点だけ原本と見比べていただくというものです。チェックのポイントは、誤字、分かち書きのミス、レイアウトの不統一や不適切な場合、漢字の読み誤り、などです。校正結果は簡単なリストにしていただきますが、そのリストの中で、修正したもの、修正しなかったものを分け、まず校正者に見ていただき、その後点訳者に見ていただくということにしています。

校正は自宅でしていただきますので、やって見ようと思われる方、お申し出下さい。よろしくお願いします。

パソコン用語

フロッピー・ディスク装置（ＦＤＤ）の清掃

皆さんパソコンの手入れをされていますか？　さて、今日はフロッピー・ディスクの読み書きをしているドライブの清掃のついて書きます。

ＦＤＤの清掃に用いるのがクリーニング・ディスクです。ＦＤＤの「ヘッド」と呼ばれる読みとり部分に付着するほこりや磁性粉などの汚れを除くために造られたものです。不織布という特殊な布に、クリーニング液を付けてヘッドの汚れをとる湿式と、液が不要な乾式があります。どちらもフロッピーディスクと同じ形をしており、フロッピーディスクを読み込ませる操作でヘッドの汚れを綺麗に掃除するようになっています。

ヘッドを傷つけることが少ないと言われる湿式の場合は次の手順でクリーニングします。

①ヘッド・クリーニング・ディスクのシャッターを開け（３．５ インチの場合）クリーニング液を２～３滴しみこませます。この時に、クリーニング液をディスクに付けすぎないように注意して下さい。
②パソコンを立ち上げＭＳ－ＤＯＳを起動します。（ＢＥやＢＡＳＥを終了し、「Ａ＞」が表示された状態）
③クリーニングしたいディスク・ドライブに液をしみこませたディスクをいれます。
④ディスクの入っているドライブの読みとり操作をします。例えばＢドライブに入れた場合は「Ａ＞ＤＩＲ　Ｂ：」と入力します。
⑤④の読みとり動作を１０秒程度行います。アクセスランプが点灯してディスクを読み、「セクターが見つかりません」とエラー表示されますが、全く問題はありません。アクセスがすぐに終わってしまう場合は［Ｒ］キーを押して読み込み動作を２、３回行わせます。
⑥クリーニングディスクを取り出した後、５分くらいそのまま放置してヘッドに付着したクリーニング液を乾かします。

クリーニング・ディスクは、１枚で20～30回使用できます。いつクリーニングしたかメモしておきましょう。

使用頻度は、週１回から月１回まで製品によってまちまちですが、自分のＦＤＤの使用頻度に応じて定期的に行えば良いでしょう。

下調べ辞書　追加データ　ニュース

－操作方は簡単です、ぜひ使って下さい－

町村名の登録が終わり、登録件数は２万９千件となりました。「六合村」と書いて「くにむら」と読むそうで、本当にむつかしいですね。「町」は「まち」と「ちょう」の読みが拮抗していますが、「村」はたいてい「むら」と読みます。しかし、沖縄では「そん」と読む場合が多いです。詳しくはパソコンで検索して下さい。これで県・郡・市・区・町・村名、全てをパソコンで検索することが出来ます。

地名
　現在の郡名
　現在の市区町村名
　漢字で書かれた国名・都市名

◇人名
　劇画家名／相撲人名／天皇名／漢字で書かれた外国人名／現在の閣僚名簿／現在の衆院･常任･特別委員長

◇その他固有名詞
　駅名（約 9,000件）／山名

◇その他
　元号名／年中行事／漢方医学関係用語／植物名（花の名前を中心に）／鉱物名／四字熟語（1098件）／馬術用語（370件）

肥後橋マップ

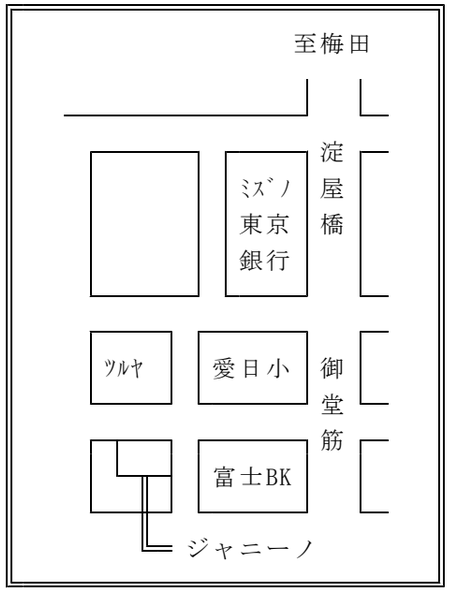
ジャニーノ淀屋橋店
大阪市中央区今橋 4-3-22　山本ビルＢ１ ℡ 06-222-3430　FAX 06-227-9870 営業時間　平日 11:00-22:30

午前中の校正を終わり、昼食のためオフィス街をぶらぶらしていて、イタリア料理のレストランを見つけました。

人通りが多いところですが、地下に二階ぐらい（？）へ降りて行くので、落ち着いた感じです。お昼のメニューも色々ありました。

サービス　ランチ　８００円
レディス　ランチ　８５０円

その他　スパゲッティー、ドリア、ピザ、グラタンなど



⊗　掲　示　板　⊗

・『点訳通信』の意見、質問、原稿をお待ちしています。あんまり難しく考えないで、思いついたこと何でも、お寄せ下さい。
いたって気軽な通信ですので、何を書いていただいても結構です
また、署名でも匿名でも結構でです。こんなことを書いては！
今ごろこんな質問をしては恥しいなどと思わないで下さい。同じような悩みをお持ちの方が多いはずです。勇気をもって書いて下さい。　(^_^)　(@L@)　(^_^;

・皆さまのご意見をお待ちしています。３階、点字フロアーの「意見箱」までお寄せ下さい。

⊗ ～自由に記入して下さい。６時間たった場合は消すことも!～⊗